

(別添 4)

【山口市】

1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1. 1 人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

ICT 環境の整備により、AI ドリルやオンライン教材を活用し、一人ひとりの習熟度に応じた「個別最適な学び」を継続すると共に、クラウド上での共同作業やオンラインディスカッションを通じた「協働的な学び」について引き続き推進していきます。

更に、山口市が掲げる「山県学園構想※」に基づき、ICT と地域連携をより密接にすることで、地域ごとの特色を生かしつつ継続的な学びの質向上が期待でき、より柔軟で創造的な教育環境の実現を目指していきます。

※小中学校を統廃合せず現状を維持したまま、学習内容によって他校との合同授業や異年齢学習を使い分けた小中一貫教育施策。R6 年度より本格実施。

2. GIGA 第 1 期の総括

山口市では R2 年度に市内小中学校に 1 人 1 台端末として iPad を導入し、R3 年度より本格的な運用が開始されました。併せて、R2 年度より校内無線ネットワーク環境の構築をはじめ、以降大型提示装置の配備、授業支援ソフト（ロイロノート）やコミュニケーションツール（teams）、学習ドリルアプリ（スマイルネクスト）、一部教科において学習者用デジタル教科書を導入する等、学習環境を大きく改革したことで、児童生徒達の主体的な学びを促進してきました。

R6 年度全国学力学習状況調査の結果では、ほぼ毎日あるいは週 3 日以上授業で ICT を活用する学校は、小中共に 100% となっており、特に週 3 日以上自分で調べる場面での活用率は小中合わせて 90% を超える結果となっています。反面、児童生徒同士や教職員と児童生徒同士でやりとりする場面、自身の特性や理解度・進度に合わせた課題へ取り組む場面については、学校によって活用率に差が生じている状況であり、児童生徒および教職員が端末を最大限活用できていない学校があることが見受けられるため、ICT 活用スキルの平準化が図られていない状況にあります。更に、今後学校だけでなく家庭での端末持ち帰りで益々端末を活用する場面が増えていくことから、教職員のみならず児童生徒にとっても、インターネットを活用し情報を正しく見つけ理解し、効果的に使用することができる力（情報リテラシー）の醸成も実施していく必要があります。

3. 1人1台端末の利活用方策

ICTの活用が「導入段階」から「教育の質を向上させる段階」へと進展し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を実現するため、以下の取り組みを進めていきます。

① デジタル教科書とオンライン学習ツールの活用

紙の教科書にはない音声・動画・インタラクティブ機能を活用し、多様な学習スタイルに対応できるほか、習熟度に応じた学習が可能になります。また、クラウド上での共有や共同作業を通じ、児童生徒同士の協働学習も活性化します。これにより、学習の効率化と深い理解を実現し、主体的な学びを支援します。

② 教職員のICT活用スキル向上

ICT活用の格差を解消し、教育の質を向上させるため、ICT活用推進校を選出し、先進的な取り組みを進めます。推進校では、教職員のICTスキル向上を図り、効果的な活用方法を実践・検証し、その成果を他校へ展開します。また、個別最適な学びや共同的な学びのモデルケースを創出し、全体のICT活用レベルを引き上げます。これにより、すべての児童生徒がより充実した学習活動を得られる環境を整えます。

③ オンライン学習と学びの保障

翻訳アプリや遠隔授業を活用し、不登校や多様な背景をもつ児童生徒に学びの機会を保障します。自宅や安心できる場所でオンライン授業を受けられる環境を整え、個別の学習支援を強化します。また、翻訳機能を活用し、日本語が苦手な児童生徒の学習を支援することで、誰もが平等に学ぶことのできる環境を実現します。

④ 利活用状況の把握

1人1台端末の利活用状況を把握できるツールを導入することで、児童生徒の学習状況や端末の活用度を可視化し、生徒の理解度や進度に合わせた適切な指導や支援を進め教育の質向上に繋げていきます。

⑤ 情報リテラシーとモラル教育

児童生徒がICTを安全かつ効果的に活用できるよう、適切な情報管理やモラル教育を推進します。端末利用に伴う情報の取り扱いについて指導し、個人情報保護やネットリテラシーの向上を図ります。また、不適切な使用を防ぎ、責任ある活用を促すことで、安全で安心な学習環境を整えます。